校長室の窓から　２７年６月

「夏を告げる ヤマボウシ」

校長　村上俊二

緑したたる六月を迎えました。学校の周りには、ヤマボウシの白い花が色濃くなった緑の中に映えます。ヤマボウシは神石高原町の町木でもあります。白い花びらに見えるのは実は四枚の「総包」というもので、花はその中央に淡黄色で小さく、多数が集合して開きます。

秋には、直径約二センチの球形の果実が赤く熟します。果肉は柔らかく、マンゴーのような甘さがあります。果皮も熟すととても甘くシャリシャリとした食感があります。果実酒にも適しているそうです。また、秋には赤く色づく葉も目を楽しませてくれます。この実を蒔いて育てた木には、実がつかないと庭師から聞いたことがありますが、まだ試したことはありません。

学校の周りには、八尾城の遊歩道に五～六本の大きな木が、グランドには一本の卒業記念樹があります。新しく拡張したグランドの法面には、ライオンズクラブから寄贈された三本のヤマボウシが今年は花を付けました。

白く清らかな、町木ヤマボウシに囲まれて、集中して学習に取り組む神石の子ども達です。